

平成29年5月30日(火)

老球の細道330号

敗北コーチよ立ち上がれ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

バスケットボールのコーチを長い間続けられたのは「努力の後の勝利」を何回か経験してきたからである。ほとんどの試合は負けることが多かったが、時々番狂わせを含む努力の後の勝利はコーチにとっては禁断の果実となる。

先週高体連地区大会を観戦した。優勝するチームは1チームだけだから、ほとんどのチームは敗北を経験した。敗北の味を味わって平気であるチーム、コーチには明日はない。悔しがり、時にはもうやめたくなるほどくじけそうになったのではないだろうか。私も現役コーチ時代は敗北を何度も経験してきて、もう次の日から練習は見ないようにしようと思ったことが何度あったかわからない。しかし、次の日の朝早く学校に行くと、いつもの通りに朝練習に来ている選手たちの一途な姿を目の当たりにする。すると、今まで萎えていた気持ちが一転して、よしまたがんばろうと意欲が戻ってきたものである。

負けたコーチは日本バスケットボール史上最高のコーチと評される故吉井四郎氏のコーチングフィロソフィーを思い出して立ち上がってほしい。

*バスケットボールの神を信じる

努力すれば必ず勝てるとはかぎらない。努力しても負けるときの方が多い。しかし、ここであきらめてはいけない、くじけてはいけない。負けても努力を続けることをバスケットボールの神様はちゃんと見ている。そして忘れた頃にドカンと神様からのプレゼントをいただける。それが私にとっては時折成しえた番狂わせ勝利だった。原町高時代の対郡山商業(県選抜大会第1シード)、喜多方女子高時代の対須賀川桐陽(県総体第2シード)、会津高時代の対福島工業(県総体第1シード)。弱小チームが県大会のシード校を撃破することができた。そして坂下高時代の地区大会初優勝は今でも忘れられない奇跡である。

*教育万能論者でありたい

選手には無限の可能性がある。コーチは選手のその無限の可能性を開くことができる力を持っている。高校から始めた初心者でも、なかなか上手になれない不器用な選手でも、時間をかけて、粘り強く指導していけばあら不思議、ある日突然能力が開花する時がやってくる。選手の大ブレイクと恋の成就是かつての歌手トワ・エ・モアじゃないけれど「あ〜る日突然♪」である。チームの一人がブレイクすれば他の選手もあれよあれよとブレイクの波及効果が起こる。そこまでコーチは我慢我慢。優れたものを育てるには時間がかかる。忍耐と信念あるのみ。栄光への道限りなく遠い、今日の1歩で近づく。

*信は力なり

コーチが教えただけでは力にならない。選手に100%伝わっていなければ力になりえない。選手に伝わるのはコーチの血となり肉となっている知識や技術である。他人の借り物で勝負してうちは選手には心底伝わらず実力とはなりえない。そしてもう一つ、選手が必ず成長することをコーチ自身が信じ切ることである。これを「ピグマリオン効果」という。選手は自分を信じてくれた人のためには全力を尽くしてその期待に応えるものである。

中国の故事「項羽と劉邦」の話に「99敗後の1勝」という言葉がある。たとえ99回負けても最後の戦いに勝ったものが真の勝利者である。これからまた戦いが続く。